

PRESS RELEASE

内容についてのお問い合わせ：
 独立行政法人国際協力機構 横浜国際センター 市民参加協力課 工藤
 TEL: 045-663-3221 (直)、045-663-3251 (代) FAX: 045-663-3265
 E-mail: jicayic-event@jica.go.jp

スリランカ初の野球場建設が決定 歴代青年海外協力隊野球隊員の悲願成就

日本政府の草の根文化無償資金協力による、スリランカ野球場建設計画が2月9日に調印されました。これにより、スリランカ全土で現在約60（高校、大学、クラブチーム計）ある野球チーム（スリランカ野球連盟調べ）にとって、悲願であった野球専用のグラウンドが初めて同国で建設されることとなります。

スリランカにはこれまで野球場がなく、ナショナルチームといえども同国でポピュラーなスポーツであるクリケットの練習場を借りて練習してきました。しかしクリケット場には、例えばピッチャー用マウンドがありません。野球の選手達は海外遠征時だけ、正規の規格を有するグラウンドに立つことが出来ました。

グラウンドも無い、厳しい環境下ではありますが、スリランカには同国政府の要請により2002年以来、野球指導のための青年海外協力隊員が代々派遣されてきています。同国の野球指導者と協力して、青年海外協力隊員達がプレーのレベルアップと普及に力を注いだ結果、隊員派遣が始まったころには限られた人達の中のスポーツであったスリランカの野球は、今や5千人の競技人口を持つスポーツへと成長、2011年のナショナルチームの成績は、世界の野球競技国72カ国中32位にまでアップしています。

青年海外協力隊員の野球指導は、野球そのものの技術向上のみならず、健康増進、リーダーシップ・チームワーク精神の醸成など、青少年の心身育成を重視し、日本とスリランカの友好親善をも目標としています。この活動をより広く普及していくためには、専用の野球場建設がどうしても必要でした。

現在派遣されている**渡辺 泰眞 隊員**（わたなべ やすま、神奈川県 桜丘高校野球部OB）は、「野球を通じて国際貢献をしたい」との思いから、2010年にスリランカ硬式・軟式野球協会に赴任し、指導にあっています。昨年は、8月28日から5日間、神奈川県下で開催されたアジアAAA野球選手権大会に、監督として高校生ナショナルチームを率いて参加、悲願の一勝をあげました（予選・決勝通じて3勝）。使いこまれた靴や道具を大切に扱い、常に前向きに、楽しそうに試合に挑む彼らの姿には、観客からも盛んな拍手が送られていました。

今回建設されることとなった野球場は、渡辺隊員の関係各方面への働きかけが実ったものでもあります。渡辺隊員は「この野球場建設を機に、スリランカにおける野球の知名度、さらには南アジアの野球熱を上げたい」と語り、このスリランカ初の野球場に夢を膨らませています。



左) 草の根文化無償資金協力の調印式にて。シンハラ語でスリランカのジャーナリストに野球を説明する渡辺隊員



上) 練習用に借りているクリケット場に集まった高校生ナショナルチームのメンバーたち